



コロナ禍におけるイベントへの取り組みについて

大館市大町商店街振興組合

組合の紹介と事業の背景

大館市大町商店街振興組合（山城久和理事長）は、大館市の中心部「大町」などを地区とし、ポイントカードをはじめ、販売促進、アーケードや駐車場の維持管理などの各種事業を行っている商店街振興組合です。

街区内の旧百貨店跡地には、屋台村をヒントにつくられた「ハチ公小径（こみち）」があり、飲食店向けの5つの出店ブースとイベント用のフリースペースを設けており、組合で管理・運営を行っています。

組合では、このブースをチャレンジショップとし、商店街への新規出店に向けた支援を行っている他、フリースペースでは様々なイベントを実施し、誘客を図ってきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、出店者が減少したほか、様々なイベントが中止を余儀なくされています。

取組内容

このような状況の中、イベントの開催で少しでも街を盛り上げようと、ハチ公小径でフリーマーケットを企画し、店舗ブースの出店者に加え、市内の雑貨店や軽食販売など計8店舗が出店しました。

当日は時折雨が降る天気でしたが、コロナ禍においては数少ない貴重なイベントとあって、軽食や雑貨購入、ワークショップでのお菓子づくり体験などを楽しむ子ども連れでにぎわいました。

今回のイベントは、感染防止対策に万全を期して実施しており、コロナ禍におけるイベント実施の可能性が広がっただけでなく、ハチ公小径スペースの有効活用の新たな方向性が示されました。

この他、組合では、市内の高校と連携し、空きブースで生徒が料理等を提供する一日カフェなどの取り組みを行っています。

期待される効果と今後の活動

ハチ公小径は昨年春に全てが空ブースとなりましたが、入れ替わりにイタリア料理店、雑貨販売店、おにぎり専門店及び洋菓子店が出店し、現在5ブースのうち4ブースが営業しています。

出店者たちでつくる実行委員会は、今後、フリーマーケットを定期的で開催する予定であり、組合では、全面的

に運営の支援・協力を行っていくこととしています。

山城理事長は「コロナ禍ではあるが、感染対策を講じながら、大町地区にもっと人を呼び込みたい。」と述べています。

商店街では、この他、県外の衣料品セレクトショップが空き店舗に1カ月限定で出店するなど、新たな動きに期待が高まっています。

【大館市大町商店街振興組合】

- ▶ 所在地／大館市字大町29番地1
- ▶ 代表理事／山城 久和
- ▶ 組合員数／83名
- ▶ 主な事業／共同販売事業、共同斡旋、環境整備事業
- ▶ 設立／昭和44（1969）年9月26日

